

2007. 12. 29

佐川克弘

大阪市内河川の魚類生息状況について

首記の件、下表の通りご報告いたします。

つきましては、異常渇水対策として大川の維持用水を、平素は60m³/sのところ、40m³/sに削減した場合、これらの魚類にどのような影響を与えるかご検討の上、河川管理者にご見解を示していただきたくお願いします。

また河川管理者は、私の質問に対して「淀川の維持流量は旧淀川（大川）、神崎川だけでなく本川の維持流量でもあり、また、維持流量は河川に生息する動植物を幅広く対象にしており特定の種だけを対象にしているわけではありませんので、このような事態における維持流量をどうするかについては総合的に判断する必要」があると回答しております。

（「質問・回答集」受付番号1075）

他方、私が学識経験者からお聞きしているご説明では、淀川の動植物にダメージを与えている最大の理由は、①洪水による攪乱がほとんどなくなったこと、②さらには淀川大堰の運用に伴い、淀川下流域が「ダム化」したことだと記憶しております。（城北ワンドのイタセンバラが絶滅したのではないかとされている理由も、正に上記の理由であって、河川維持流量の多寡は無関係だったのではないのでしょうか？）

いづれにしましても、維持流量を削減した場合の、貴委員会の「総合的判断」を河川管理者に示して下さい。

なお出典は大阪市都市環境局「大阪市下水道事業環境報告書」（平成17年度決算版）です。

	大川	東横堀川	堂島川	土佐堀川	安治川
ギンブナ	○	○			
ハス	○	○	○	○	
コウライモロコ	○	○			
オイカワ	○	○	○		
アユ	○				○
モツゴ	○	○	○		
スズキ	○	○	○		○
カマツカ	○			○	
マハゼ	○	○	○	○	○
ボラ		○	○	○	○
メダナ		○	○		○
ニゴイ			○		
カダヤシ			○		
コノシロ				○	

（注）上表以外に、安治川にはサツパ、ヒメハゼ（ヒナハゼ？）、セスジボラ、マコガレイが生息している。